

平成21年度 学校自己評価システムシート (県立久喜工業高等学校)

目指す学校像	自分創りを目指し、望む進路(理工系大学・企業・難関資格取得)実現を図り、 真の感動を味わえる ころ・技・からだ が育つ学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力と技術力の向上を推進する 授業態度の確立を図る。授業内容の充実を図る。資格取得等の励行を図る。 2 基本的な生活習慣の確立と向上を推進する 欠席、遅刻、早退の減少を図る。服装、頭髪指導の徹底を図る。挨拶と正しい言葉遣いの励行を図る 3 人権尊重の教育を推進する 人権を尊重する生活態度の育成を図ると共に、人権教育の充実を図る。 4 開かれた学校づくりを推進する 中学生やその保護者に積極的な情報提供を図る
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価				年 度 評 価 (12月24日 現在)			
年 度	目 標	年 度 評 価	達成度	次年度への課題と改善策			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	○学習意欲に欠ける生徒が見受けられる。 ○基礎的な知識や能力に欠ける生徒が見受けられる。	学力と技術力の向上を推進する。	○「人の話を聞く姿勢」や「学ぶことの大切さ」を折に触れて話して聞かせる。 ○生徒の興味関心をひく授業展開や教材の選択を工夫する。 ○資格取得指導を引き続き推進するとともに、従来のもの以外にも取り組める資格があるか検討する。 ○普通科と工業科でより一層協働し授業計画を見直すために研修会を企画する。	○成績不振者数 ・欠点者数及び欠点解消率 ・提出物の状況 ○資格取得状況 ・受験者数及び合格率 ○普通科・工業科合同研修会の回数	○欠点者数は微減、欠点解消率は年を追って減少している。 欠点者数 解消率(昨年、一昨年) 228人(234人、240人) 33%(35%、36%) ○課題(レポート等)の提出状況は以前と比べ良くなっている。しかし一部の生徒に未だ向上が見られない。 ○資格試験合格率はやや増加した。	B	○中学校までの基礎学力が不十分な生徒については、主要5科目連携することで、1学年スタート期か、恒常的に基礎学力補習を行う必要があると考えられる。
2	○一部の生徒に欠席、遅刻、早退がみられる。 ○一部の生徒は、頭髪・服装指導で指導されている。	欠席・遅刻・早退の減少、服装・頭髪指導の徹底、挨拶と正しい言葉遣いの励行を図る。	○遅刻指導の必要性が見られるので、学校全体として組織的な指導を行うよう工夫する。 ○校門指導や通学路指導を継続的に行う。 ○頭髪・服装検査の事後指導を徹底して行う。 ○スクールサポーターとの連携も工夫する。	○欠席・遅刻・早退の数 ○頭髪・服装検査の違反者数 ○校門指導・通学路指導の回数	○年間を通した校門指導と学年と連携した年間8回(昨年よりも1回多い)の頭髪・服装指導と事後指導の徹底を図ることである程度の成果を見ることができた。PTAの協力のもと、スクールサポーターが昨年以上に協力していただき、連携して指導を行えた。	B	○欠席・遅刻指導に関して担任・学年団、教務部、進路指導部と連携した組織的な対応を検討したい。
3	○人権問題について学習し、人権を尊重する態度を育成する。 ○生徒会活動をはじめ、生徒の自主的な活動を通して「こころ」の教育を充実させる。 ○生徒会活動において、生徒会執行部は熱心に活動しているが、生徒会全員を巻き込んでいない。 ○生徒会新聞の発行も順調だが、さらに内容に厚みを持たせたい。 ○部活動の活動が見えにくい。	人権を尊重する生活態度の育成を図ると共に、人権教育の充実を図る。	○全校集会で人権問題に関する講演・ビデオ視聴やLHRでの指導などにより人権を尊重する態度を育成する。 ○生徒会執行部と委員会が核となる組織作り・計画の立案を行う。また、各行事においてより多くの生徒を巻き込むような組織作りを行う。 ○生徒会新聞については、写真部と連携することで確実に取材する。編集委員の増員を図る。また、生徒の関心の高い話題を提供することで多くの生徒の協力と支持を得たい。 ○部活参加者を増やすために今以上に「見える部活動」を目指して、広報活動に力を入れる。	○全校集会、LHRにおける人権教育の回数 ○各種委員会や部長会議の開催回数と出席率 ○生徒会新聞の発行回数 ○部活動への参加率	○「いじめの問題」や「児童虐待」などについて扱ったビデオを視聴した。問題をわかりやすく描いていたので、生徒は素直に理解したようだ。 ○生徒会新聞は8回(昨年度は10回)発行した。	B	○二年生が学年閉鎖のため、ビデオを視聴できなかった。全校だけでなく実施できる内容も検討する必要がある。
4	○久喜工高の情報が中学生やその保護者、地域の方々、本校生徒の保護者などに十分に伝わっていない点がある。 ○年2回、学校評価懇話会を開催している。頂いた意見を学校運営に反映させたい。 ○スクールサポーターとの連携を工夫し、幅広く参加してもらおう。	中学生やその保護者に積極的な情報提供を図る。	○学校側から積極的にホームページや広報などを使って情報発信を行うとともに、PTAや地域との連携を深める。 ○学校案内等の内容を、親しみやすく印象深い物にすると共に、中学校訪問などを通してPRに努める。 ○学校評価懇話会へ多くの教職員に参加してもらおう。 ○各分掌等と相談しながらスクールサポーター活動の充実を図る。また、PTA・後援会の会合等でスクールサポーター登録の呼びかけを行う。	○学校公開の参加者数 ・文化祭 ・公開授業 ・体験入学 ・学校説明会など ○スクールサポーターの参加者数	○昨年度よりも多くのサポーター(保護者)が月初めの早朝より来校し、校門・通学路・駅前に立ち、より遅刻や通学指導の一助になっている。 ○高校進学フェアやものづくり教育フェア、久喜市民祭りに保護者がサポーターとして参加協力をして頂き、地域との連携や本校理解に貢献した。 ○本年度は新型インフルエンザにより文化祭等の学校行事で予定の変更や内容の変更が行われてしまった。そのようなときに、外部へホームページを利用して情報提供が出来た。	A	○サポーターの活動が一般会員に伝わるようにし、欠席や遅刻の減少に繋げたい。 ○地域社会に対しては、もう少しアピールが必要ではないかと考える。 ○入試等の結果からも分かるように、外部への情報提供はできていないが、今後の発展の為にさらなる方策・検討が必要と考える。

学校関係者評価	
実施日	平成22年 2月 26日
学校関係者からの意見・要望・評価等	○減少はしているが、まだまだ改善の必要がある。今後の方策・計画について早めに検討する必要がある。 ○学力に乏しい生徒には、放課後の補習等を行った方がいいのではないかと? ○家庭と学校の密な連携が必要であると考ええる。 ○評価として少し甘いのではないかと?
	○家庭の問題が先決と考えられる。 ○生徒一人一人の意識改革が、必要であると考ええる。 ○企業でも問題になっていることで、職業高校では是非改善してほしい。
	○生徒会活動については毎年、非常によくやっている。今後も期待している。また、来年度の文化祭は是非来場者千人を目指してほしい。 ○挨拶は非常にできるようになってきた。今後も続けてほしい。
	○サポーターの活動が非常に活発に行われた。 ○地域社会に対しては、もう少しアピールが必要ではないかと考える。 ○入試等の結果からも分かるように、外部への情報提供はできていないが、今後の発展の為にさらなる方策・検討が必要と考える。